

平成 19 年 11 月 16 日

高校再編について（中間まとめ）

長野県高等学校長会

はじめに

本年 6 月、県教育委員会が「高等学校改革プランの今後の進め方について」を公表し、今後の高校再編について高校長会の意見を聞きながら「再編計画の骨子」を作成することとした。これを受け、現在、県高校長会は、旧通学区の校長会、地区校長会、専門部会などで検討を重ね、将来像研究委員会で意見を集約しているところである。

高校再編の検討は、平成 16 年 1 月に設置された高等学校改革プラン検討委員会に始まる。それ以来、今日まで、高校長会においても多くの時間を割いて研究を続け、機会をとらえて検討に関わってきた。今回、中間まとめを行うにあたり、高校長会と高等学校改革プランとの関わりについて、これまでの経緯を振り返っておきたい。

高等学校改革プラン検討委員会は、平成 16 年 8 月に「中間まとめ」、平成 17 年 3 月に「最終報告」を公表した。この間、高校長会としても、5 人の校長が高等学校改革プラン懇話会の委員となり、「中間まとめ」に対する意見交換に参加した。

「最終報告」の公表を契機に、平成 17 年 4 月、高校長会に将来像研究委員会を置き、この問題について研究、協議を進めることとした。5 月、高等学校改革プラン推進委員会が設置され、高校長会は 4 人の将来像研究委員を各地区の委員として送り出した。

高校長会としては、多様化する生徒の状況や少子化傾向を考えると、選択幅の広い教育課程の編成や生徒会活動、クラブ活動等の自主活動を保障するために、高校の再編統合は必要であると考えていたが、平成 19 年度からの一斉実施については無理があるので年次的な計画を策定してほしいと、強く要望した。

しかしながら、平成 18 年 3 月の「高等学校改革プラン実施計画」では、平成 19 年度から 9 件の統合、1 校の多部制・単位制への転換、1 校の総合学科への転換と平成 20 年度から 3 校の多部制・単位制への転換を実施することとした。これに対して、統合、転換の対象とされた高校では、新入生を混乱なく受け入れ、希望する高校教育を保障する責任があると考え、翌年度の開校、開設に向けて本格的な準備に入った。高校長会としては、当該校をどのように支援していくかが新たな課題となった。

その後、9 月の臨時県議会における決定により 7 件の計画が凍結されたが、平成 19 年度に統合、転換を実施する飯山高校、中野立志館高校、木曽青峰高校、

松本筑摩高校、丸子修学館高校の5高校と、平成20年度に多部制・単位制に転換する箕輪工業（箕輪進修）高校への財政的、人的な支援を県教育委員会に要望するとともに、改めて高校再編の研究、協議を再開した。

平成19年に入り、高校長会において、高校再編の必要性、学校規模の多様性と適正規模、再編・分校化の基準、一斉実施の問題点などについて協議し、意見や要望を県教育委員会に伝えた。6月に発表された「高等学校改革プランの今後の進め方について」にはそれらの意見や要望が反映されていると受け止めている。

また、将来像研究委員会を中心に、専門部会、地区校長会、旧通学区校長会などで検討を重ねるとともに、旧通学区ごとに中学校長会との話し合いを持ち、県議会高校改革プラン研究会やPTAの方々に対し、高校長会の立場と基本的な考え方を説明し、さらに意見を伺う機会も得た。

これまで各方面からいただいた意見や高校長会での議論を踏まえ、ここに、中間まとめとして、高校長会の立場、高校再編に対する基本的な考え方、各地域の現状と課題を提示したい。

1 高校長会の立場

県教育委員会は、「高等学校改革プランの今後の進め方について」において、平成20年6月までに「再編計画の骨子」を作成し、平成21年6月までに具体的な再編計画を策定するとしている。高校長会が求められているのは、再編計画案をつくることではなく、あくまでも「再編計画の骨子」に対し、高校教育に携わる現場の責任者としての意見や要望をとりまとめることである。

校長は学校の責任者として、教職員と協力し、保護者や地域の方々の協力、支援を受けながら自校の魅力づくりに努めている。今回の検討にあたっては、そうした立場を超えて高校教育に携わるものとして、地域全体さらには県全体の高校教育の今後のあり方を考え、教育の質を高め、よりよい学校づくりをめざす教育的な視点から、できうる限り客観的、中立的に高校再編を検討したいと考えてきた。

2 高校再編に対する基本的な考え方

(1) 再編の必要性について

現在すでに少子化により進行している高校の小規模化については、生徒の多様化に対応して選択幅の広い多様な教育課程を編成することや、生徒会活動、クラブ活動等、生徒にとって魅力的な自主活動を保障するために、できるだけ早く高校再編を進め、適正規模を確保することが必要である。そこであまり先にならないよう平成25年頃を一区切りとし、現時点で入学予定者

数を見通すことができる範囲の、平成 30 年代を見据えて高校再編計画を策定するよう提案したい。

(2) 高校の適正規模について

高校の規模は、1 学年 6 学級を標準とし、上限 8 学級、下限 2 学級とされてきており、学校や地域の状況によって多様である。例えば、農業高校は現在 1 学年 4 学級規模が最大である。また、1 学年 2 学級の下限規模であっても、地理的な条件からできるだけ維持すべき高校もある。一方、都市部校にあっては 1 学年 8 学級規模が望ましい場合もある。

今回の「高等学校改革プランの今後の進め方について」において、新たな再編基準が示されたが、他校との統合や地域キャンパス化、さらには募集停止に進むような場合は、地域における高校教育の保障に配慮して、慎重に検討してほしい。

(3) 専門学科（農業・工業・商業・家庭）の適正配置について

専門学科を有する高校はいずれも小規模化が進んでいる。専門学科の適正規模と適正配置を改めて考える必要がある。さらに、多くの高校において施設・設備が老朽化しており、昨今の厳しい財政状況を考えるとき、それぞれの専門学科ごとに地区の拠点校（基幹校）を決め出し、重点的に施設・設備を充実させ、拠点校（基幹校）と周辺の専門学科を有する高校との連携した教育のあり方を研究したい。

同時に、専門学科を有する高校においても異なる学科との統合を検討し、学科融合的な新しい学科を設置することや学科を越えて教科選択ができるようなシステムなどの魅力づくりも研究したい。

専門学科は、その時々産業社会の変化に教育内容を適合させるために、産業教育審議会の答申を受けてきた経過がある。今回の高校再編にあたり、今後の産業教育のあり方について、産業教育審議会の意見を聞くことも考えられる。

(4) 新しいタイプの学校について

総合学科と多部制・単位制高校は、各通学区に 1 校以上の設置が望ましいと考えている。多部制・単位制高校の設置にあたっては、周辺の定時制・通信制の適正配置についても検討する必要がある。

さらに、中高一貫教育や全日制単位制などの新しい教育システムの導入についても検討する必要があると考える。

(5) 特別支援教育について

現時点でも、多くの高校に発達障害等があり特別な支援を必要とする生徒が入学しているが、小中学校に比べて高校においては、その支援体制が整っているとは言いがたい。高校における特別支援教育については、中学校長会からも強い要望があり、そのあり方の検討が急務であると考えられる。

3 各地域の現状と課題

「高等学校改革プランの今後の進め方について」において、「1 学年 2 ～ 4 学級規模の学校については、地理的条件、学科の適正配置等を考慮しながら、周辺にある高校との統合等により、魅力と活力ある新たな高校への再編を検討する。」また、「1 学年 5 学級規模以上の学校についても、定員の充足状況や学科の適正配置等を考慮しながら、魅力と活力ある高校づくりという観点から、地域内での再編を検討する。」との再編方針を示していることを念頭に置きながら、各地区の現状と課題を考えてみたい。

【北信】

- 1 区 少子化の進行が著しく、平成 25 年頃を目処に飯山高校の二次統合が予定されている。さらに、その後の将来の高校のあり方について考えていく必要がある。
- 2 区 中野立志館高校がスタートしているが、今後さらに少子化が進行することから普通科、専門学科、普通科と専門学科の再編統合なども考える必要がある。
- 3 区 現在の生徒在籍状況が続くとすれば、再編基準により地域キャンパス化（分校化）する高校が予測される。一方、長野市内校は他の都市部と比べ小規模になっており、改めて適正規模を考えてみる必要がある。
- 4 区 7 校中 5 校が 1 学年 5 学級規模以下であり、普通科、専門学科、普通科と専門学科の再編統合などとともに新たなシステムを導入した学校づくりを考える必要がある。

相互の流出入の大きな 2、3、4 区については、一体的に将来のあり方を考えてみる必要がある。また、多部制・単位制高校の設置が課題であるが、松本筑摩高校、箕輪進修高校の先行事例を見ながら検討したい。

【東信】

- 5区 もともと大規模校が多く、ようやく適正規模が実現されてきている。一方、多様化する生徒の状況やニーズに対応できる、新たなシステムを導入した高校の設置が課題となっている。
- 6区 1学年5学級規模以下の高校が多く、これからもさらに少子化が進行するので普通科、専門学科、普通科と専門学科の再編統合なども考える必要がある。

多部制・単位制高校の設置が課題であるが、交通の利便性を考えて検討したい。

【南信】

- 7区 専門学科の中心校もあり、9校中8校が1学年5学級規模以下である。また、他学区からの流入も多く、県外等への流出もあることから、再編統合や新たなシステムを導入した学校づくりも考える必要がある。
- 8区 箕輪進修高校が多部制・単位制の高校としてスタートするが、1学年5学級規模以下の学校が4校あり、交通の利便性を考慮した再編統合や新たなシステムを導入した学校づくりも考える必要がある。
- 9区 飯田工業高校と飯田長姫高校の統合が予定されている。また、普通高校の学級規模に大きな差が認められる。当面は専門高校と普通高校を分けてあり方の検討を進め、将来的には、再編統合や新たなシステムを導入した学校づくりも考える必要がある。

総合学科の配置が課題であるが、新たなシステムの導入の中で検討したい。

【中信】

- 10区 すでに統合を進めている木曽青峰高校の充実と発展に力を尽くしたい。また、さらに少子化が進行することから、適正な学級数や学科配置等、高校のあり方について地域で考えていく必要がある。
- 11区 総合学科や多部制・単位制もすでに導入されており、専門学科も整備された地域である。私立学校の再編計画も発表されているので、その動向や影響も見定めつつ、今後の再編統合について考えてみる必要がある。

12区　すでに各校が小規模化し、さらに少子化が進む地域である。通学の可能性に配慮しながら、新たな魅力づくりのための再編統合を考えていく必要がある。

4　今後の予定

今後、各方面からの意見を聞きながら、旧通学区の校長会、地区校長会、専門部会や将来像研究委員会においてさらに検討し、来年1月31日に予定されている校長会臨時総会で「最終まとめ」を出したいと考えている。

資料 1 旧通学区・通学区別・年齢別 14 歳以下人口

通学区	旧通学区	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳
		中学3年 H20年	中学2年 H21年	中学1年 H22年	小学6年 H23年	小学5年 H24年	小学4年 H25年	小学3年 H26年	小学2年 H27年	小学1年 H28年	H29年	H30年	H31年	H32年	H33年	H34年
1	1	379	367	356	382	352	353	320	318	295	317	268	257	257	249	263
	2	1,371	1,329	1,494	1,307	1,432	1,278	1,323	1,327	1,245	1,292	1,176	1,162	1,076	1,022	1,008
	3	2,772	2,742	2,802	2,735	2,677	2,766	2,813	2,780	2,740	2,689	2,746	2,631	2,533	2,473	2,465
	4	2,079	1,999	2,130	2,042	2,039	2,044	1,975	1,988	2,008	1,936	1,929	1,874	1,822	1,762	1,697
	小計	6,601	6,437	6,782	6,466	6,500	6,441	6,431	6,413	6,288	6,234	6,119	5,924	5,688	5,506	5,433
2	5	2,037	2,052	2,145	2,002	2,071	2,012	1,985	2,002	1,896	1,973	1,845	1,827	1,828	1,797	1,793
	6	2,406	2,142	2,209	2,250	2,199	2,122	2,169	2,049	1,983	1,980	1,929	1,875	1,790	1,810	1,730
	小計	4,443	4,194	4,354	4,252	4,270	4,134	4,154	4,051	3,879	3,953	3,774	3,702	3,618	3,607	3,523
3	7	1,883	1,873	1,954	1,948	1,972	1,980	2,041	2,003	1,981	1,993	2,020	1,919	1,854	1,911	1,878
	8	2,029	1,899	1,997	1,936	1,926	1,985	1,935	1,884	1,963	1,914	1,877	1,874	1,767	1,796	1,782
	9	1,859	1,726	1,781	1,708	1,682	1,682	1,717	1,762	1,713	1,698	1,628	1,605	1,562	1,552	1,453
	小計	5,771	5,498	5,732	5,592	5,580	5,647	5,693	5,649	5,657	5,605	5,525	5,398	5,183	5,259	5,113
4	10	335	287	347	286	267	282	261	237	243	234	222	208	229	227	199
	11	4,130	4,099	4,449	4,206	4,197	4,278	4,278	4,299	4,397	4,202	4,116	4,022	3,908	3,955	3,865
	12	638	702	674	641	646	646	613	611	546	559	579	558	492	462	427
	小計	5,103	5,088	5,470	5,133	5,110	5,206	5,152	5,147	5,186	4,995	4,917	4,788	4,629	4,644	4,491
総計		21,918	21,217	22,338	21,443	21,460	21,428	21,430	21,260	21,010	20,787	20,335	19,812	19,118	19,016	18,560

注) 「市町村別・年齢(各歳)別・男女別人口(H19.4.1現在)」(長野県企画局情報政策課)及び
「長野市地区別年齢別人口(H19.4.1現在)」(長野市企画政策部企画課)の人口データに基づき集計した。

資料2 平成19年度公立高等学校募集学級数一覽(全日制)

通学区	学級数	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級	学校数計	学級数計
第1通学区	第1区	下高井農林(農)		飯山北(普3、理1) 飯山(普3、体1)					3	10
	第2区			須坂商業(商) 須坂園芸(農)		中野西(普5、英1) 須坂東(普) 須坂(普)	中野立志館(總)		6	33
	第3区	中条(普) 犀吹(普)	北部(普)	[市立早月(普3、家1)]	長野商業(商)	長野西(普5、國際1) 長野東(普)	長野吉田(普) 長野(普) 長野工業(工)		10	49
	第4区			更級農業(農) 屋代南(普3、家1) 坂城(普)	長野南(普) 松代(普2、商3)		篠ノ井(普) 屋代(普6、理1)		7	36
第2通学区	第5区				東御清翔(普)		上田千曲(工4、商1、家2) 丸子修学館(總)	上田(普) 上田染谷丘(普7、國際1) 上田東(普)	6	43
	第6区	望月(普)	蓼科(普) 輕井沢(普2、國際1) 北佐久農(農)		白田(普2、農1、工1、家1)	小諸(普5、音1) 野沢北(普5、理1) 野沢南(普)	岩村田(普4、工3)		11	49
	第7区		富士見(普2、農1)	茅野(普)	諏訪実業(商4、家1) 諏訪二葉(普) 下諏訪向陽(普) 阿谷東(普) 阿谷南(普4、英1) 阿谷工業(工) 辰野(普3、商2)	諏訪清陵(普)		9	43	
第3通学区	第8区		箕輪工業(普2、工1) 高遠(普) 駒ヶ根工業(工)	上伊那農業(農)		伊那弥生ヶ丘(普)	伊那北(普6、理1) 赤穂(普5、商2)		8	38
	第9区		阿智(普) 阿南(普)	松川(普) 飯田工業(工) 飯田長姫(工2、商2) 下伊那農業(農)				飯田(普7、理1) 飯田風越(普7、國際1)	8	38
	第10区		蘇南(普1、工1、商1)			木曾青峰(普3、理1、農1、工1)			2	9
第4通学区	第11区			梓川(普) 明科(普) 穂高商業(商)	松本工業(工)	塩尻志学館(總) 豊科(普)	田川(普) 松本美須ヶ丘(普) 松本嶺ヶ崎(普)	松本県ヶ丘(普7、英1) 松本深志(普)	12	69
	第12区	白馬(普)	南安農農業(農) 池田工業(工) 大町北(普)	大町(普3、理1)					4	12
	学校数	5	15	18	14	13	14	7	86	429
構成比	5.8	17.4	20.9	16.3	15.1	16.3	8.1	100.0	100.0	